



農業が  
おもしろくなる  
私の  
情報活用 7



渋谷雄二さん

少量多品目地域の普及センターで  
「ルーラル電子図書館」  
フル稼働

群馬県渋川地区農業改良普及センターのみなさん

編集部

合併や人員削減など、農家の身近な相談先である普及センターは今、大きな転換期を迎えている。そんな普及センターの「私の情報活用」を取材した。

五丁九月で

一八〇〇ページの利用

「普及センターは、今、多角経営です」  
そう話すのは群馬県渋川地区農業改良普及センターの渋谷雄二さんである。

渋川普及センターの管内は一市二町五村、榛名山や子持山、赤城山に囲まれた自然環境や観光資源に恵まれた地帯だ。畑地率が七五%と高く野菜、果樹など多種・多様な農産物が生産され、コンニャ

渋川普及センターでの  
2004年5～9月の利用状況

作品（データベース）名	記事数	ページ数
現代農業	88	341
農業技術大系	165	1066
病害虫・雑草の診断と防除	128	390
花卉病害虫の診断と防除	2	6
食農教育	1	4
書籍	1	1
計	385	1808

ク産地としても知られている。

直売所が大変盛んで、年間売上げが数千万～三億円の大きな直売所が一四カ所あり、果樹農家も大多数が観光農園や直売で経営している。

壮年農家も、女性や高齢者も活躍する少量多品目生産だから、栽培にかかわる農家の要望も多様になる。そんななかで威力を発揮しているのが、「ルーラル電子図書館」だ。

普及センターは本電子図書館の法人会員になっており、普及員の皆さんが利用

今年の五月から九月だけでも一八〇〇ページを超え、その内訳は、多い順に「農業技術大系」、「防除」、「現代農業」となっている。

### 資料づくりに、家での勉強に

最近、盛んに利用しているのは、広域に果樹を担当している三ツ石昌幸さんだ。観光農園や直売の経営ではあれもやりたい、これもやってみようという樹種が増え、その結果、電子図書館で調べる樹種も多くなる。ブドウ、リンゴ、オウトウ、キウイフルーツ、プルーン、ユズ、イチジクなどの記事を取り出し、資料づくりや農家からの相談に生かしてきた。アボカドをやれないかとの相談もあり、「果樹編」の記事で調べてみたが、この地域では寒くて難しいことがわかった。

資料づくりでは、記事のPDF画面から図表などをコピー&ペーストで活用している。電子データを生かして編集するわけだ。現場からもどった夕方、職場で記事を調べ、プリントして持ち帰り勉強することも多い。電子図書館なら必要な

記事を簡単にプリントできる。センターにある「果樹編」を持ち出すわけにはいかないし、本からコピーするのもめんどろだ、という。

一方、先の渋谷さん(担当は作物)は病害虫や、発生が多かった水田の藻について調べたりしているが、その渋谷さんが一番気にしているのは「農業検査」コーナーだ。作物名、病害虫名、農薬一覧、各農薬ことの使用法、をクリックだけで簡単にすばやくたどることができる。ただし、県からはJPP、NET(日本植物防疫協会)や農薬検査所のデータで確認するよう指示されており、実際の指導に当たっては、それで最終確認するようにしている。

ところで、渋谷さんは、食育モデル校の小学校でイネやラッカセイなどの栽培指導を二年間行なった。その時は「イネの絵本」や「ラッカセイの絵本」など、農文協の「そだててあそぼう」シリーズが大変役だったという。「小さい面積でのつくり方を教えるのにもいい」と渋谷さん。ちなみに、普及センターでは「農

業技術大系「農業総覧」の全編とともに「そだててあそぼう」を数多く取り揃えている。「本のほうが慣れているし」と、もっぱら「技術大系」の本を利用しているベテラン普及員さんもある。

### 病害虫の絵解きがいい

野菜担当の唐澤智さんは、防除のデータベースをよく使う。症状の特徴を絵解きしたページが、ポイントをおさえていて役だつという。病害虫にやられた作物の現物を持ち帰って調べたり、農家から



近藤智恵さん(左)と唐澤智さん

ルール電子図書館・  
「病害虫・雑草の診断と防除」の絵解きページ  
ここから診断法や防除法の記事にとぶことができる



など、時期時期の作業の時と、二回調べ  
る機会があるという。

「寒じめホウレンソウ」の記事も役だっ  
た。洪川では昨年、九月末播種、年  
末から年明けにかけて出荷する寒じめ裁  
培に農家十数戸で取り組んでいる。軸の  
糖度を調べ、一定以上の糖度のものを  
「ちぢみホウレンソウ」として出荷する  
のだが、電子図書館の記事で、寒さで糖  
度やビタミンC含量が増えるしくみがわ  
かり、助かったという。

### 農家が安心して ラクにできる防除を

同じく野菜担当の近藤智恵さん。「ま  
だまだわからないことばかりで、農家に  
教えられたり、電子図書館で調べたりし  
てやってます」という近藤さんは普及員  
三年目。とはいえ、すっかり農家から頼  
りにされているようだ。全国的に女性の  
普及員さんの割合が増えるなか、「ルー  
ラル電子図書館」を愛用している女性普  
及員も増えている。

近藤さんが一番多く使うのもやはり、

防除のデータベース。少し前にもオクラ  
に虫がでたという相談が入ったが、そん  
なときは、あらかじめ、写真入りのオク  
ラの害虫の記事をプリントして現地にい  
く。こうすると、現地で診断と防除のア  
ドバイスがスピーディにできる。マイナ  
ーな作物で、その病害虫がでない場合  
は、他の作物での情報を参考にする。  
たとえば、「キスジノミハムシ」で検索す  
れば、いろんな野菜での記事がでてくる  
から、似たような野菜のキスジノミハム  
シの記事を参考にする。病害虫名で検索  
できる電子図書館なら、そんなことがた  
ちどころにできる。

「野菜編」の基本技術の記事もよく利用  
する。今年は乾燥でニラの分けつが少な  
かった。そこで、分けつはどんな条件で  
いつまで増えるかを調べた。JA經由で農  
家から、タマネギの低温貯蔵の方法につ  
いての相談が入り、「野菜編」の貯蔵の  
記事に、温度の下げ方など、温度管理の  
実際が書かれていて助かった。

そんな近藤さんは、「現代農業」の記  
事も時々みる。最近では防虫ネットと、

病害虫についての電話が入った時には、  
電子図書館の場面を開いてから相談にの  
る。農家から発生部位や症状のようすを  
聞きながら、絵解きや症状写真を見てい  
くと、およその検討がつく。最近ではプ  
ロッコリーのベト病、ホウレンソウの株  
腐病などで、そんな相談に応じた。  
ほかにイチゴなど「野菜編」の基本技  
術の記事もよく使う。全体の栽培指針を  
つくる時と、保温後の管理をどうするか



「農業技術大系」「農業総覧」の全編が揃っている

「ナスのソルゴー」の記事。

チンゲンサイではこれまで、目あいが1mmの防虫ネットを使ってきたが、キスジノミハムシなど微小害虫の被害がでる。そこで「防虫ネット」で検索。目あいと通気性の関係や、細かくても蒸れないタイプのネットがあるなど、「現代農業」の記事を参考にネットの種類を変え展示棚を設けることにした。

一方、ナスの部会では今年から全員で

天敵のすみかとなるソルゴーをナスの周囲につくる減農薬栽培に取り組んでおり、各地の事例記事を、興味深く読んだ。

おおむねうまくいったが、一部にアブラムシが大発生した農家もいた。聞いてみると、手元にあつた従来の農薬を使つたため、天敵まで殺してしまつたようだ。とりあえず、ソルゴーも含めて従来の農薬を散布するようアドバイスしたが、ソルゴー方式では、やはり天敵に影響の少ない農薬を選ぶことが重要だと、改めて確認した、という。

農家が安心してラクにできる防除にむけ、近藤さんは張り切っている。

### 本誌の読者からの 問い合わせには

ところで、普及センターには、「現代農業」の読者から、記事を読んでの問い合わせが時々くるといふ。そんな時は「現代農業」でどんなことが書いてあるのかを電子図書館で調べてみる。最近では、「苦土の積極施肥」や「糖度計診断」

について、どう考えたらよいかという相談があつた。

「防虫ネット」や「ソルゴー」などは試験場でも研究された技術だが、糖度計診断などの農家の工夫や新しい着想は、そのまま推奨することはできない。

「試験場の研究などの裏づけがないと、普及センターとしては農家に勧めることはできません。でも、『現代農業』で紹介されている農家の工夫は、おもしろいし、どうかなあと思うこともあるけど、いろいろヒントを与えてくれます。『現代農業』の魅力ですね」と、渋谷さんが「技術大系」や「防除」のデータベースがメインだが、「現代農業」も欠かせないのである。

\*

普及職員の一元化や、普及センターの必置規制の廃止など、普及事業の縮小が心配され、そんななかで「現場主義に徹する」という姿勢を堅持する「ことが強調されている。「現場主義」の武器として、「ルール電子図書館」をますます活かしてもらいたいと思う。